

令和2年度

社会福祉法人 菊豊会

事業報告書



令和2年 法人本部 行事報告 菊豊会

月	行 事	備 考
4		入園式 4日
5	29日 監事監査	2 園合同交流会
6	10日 理事会（書面） 25日 評議員会（書面）	
7		
8	24日 内部経理監査	
9	県指導監査（さくら） 県指導監査（第2さくら）	
10		3日 第2さくら運動会 31日 さくら運動会
11		21日 第2さくら生活 発表会 28日 さくらお遊戯会
12		
1	25日 内部経理監査	
2		29日 さくら生活発表会
3	26日 理事会	13日 卒園式

令和元年度

菊池さくら保育園 事業報告書

1、総 括

令和2年3月2日から5月末までの登園自粛期間の中、スタートした令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に翻弄された年であった。緊急事態宣言の発令を受け、感染リスクの恐れがありつつも閉園することなくいかに安全に保育ができるか、「コロナ禍でも出来ること、コロナ禍だからこそ出来ること」を考えながら子どもたちの健やかな育ちを第一に保育にあたった。

入園式は密を避けるために人数制限や間隔を取りながら実施。保護者会総会・保育参観は中止し、クラスの様子をなるべくビデオで撮ってHP上で公開または写真等を掲示板に張り出して様子を伝えるようにしてきた。お泊り保育も簡素化した形で実施し、夏祭りは子どもたちだけで「ちびっ子夏祭り」をホール内で開催することができた。運動会、お遊戯会、生活発表会等の行事もプログラムを見直す形で実施した。

恒例の親子マラソン大会も安全面での見直しも含めて、ワクワクの森を舞台に「ワクワクかけっこ大会」に変更して保育環境を十分に活かしたものとなった。行事の見直しを図ることでより違った視点で、一人ひとりの子どもたち中心の育ちに重きをおく保育がより高まった。未満児クラスでの担当制保育で一人ひとりに向き合いながら自尊感情を高める保育を行い、以上児クラスではクラスの特徴を尊重しながら子どもたちからのやってみたいという声を拾いながらプログラミングして日々の保育を展開することができた。

令和2年度は90名の人数でスタートだったが、年度途中には100名を超えて受け入れることができた。年度途中に産休に入る職員の影響もあったが、主任保育加算や3歳児加算適用を年度通年で満たすことができた。

コロナの影響を受けて人事院勧告が引き下がったこと、前年度と比べると入園児童数が減ったことで前年度より保育事業収益は800万ほどの減となった。職員の処遇改善に力を入れていることもあり人件費率が81.6%（前年度参考76.8%）となったこと・積立金計上が出来なかったことから、財務状況の見直しが必要となる。前年度末に積立金を取り崩して保険積立資産として一部運用することとした。

引き続き給与の改善を行うと共に有休休暇のとりやすい雰囲気作りや多様な働き方等、女性の職場づくりを行い職員の確保に今後も努めていきたい。

2、保育内容

(1) 保育活動の実施について

当園の保育目標である「丈夫で、素直な、遊べる子ども、自分で考える子ども」を念頭に令和元年度も常に一人ひとりを大切にする保育を実施してきた。基本理念として、子どもの発

達段階に応じて個性を重んじ確かな成長を目指した。そのために個人の人格を尊重することは勿論、言葉で教えることより様々な体験を通して、子供たちが逞しく成長する保育に努めた。各クラスで担当保育士が身体を惜しまず知恵を絞って色んな保育活動を考えて保育を実施した。

(2) 家庭や地域社会の連携について

園と家庭との連携を密にするため「園便り」や「クラス便り」発行はもとより、「ホームページ」「一斉メール配信」を情報発信のツールとして確立した。日常の保育活動の様子は「携帯メール配信」「さくらのまど」等でその日の活動写真を張り出すなど、保育情報やタイムリーな様子を随時発信して情報の共有に努めてきた。

特に前年度はコロナ禍にあって保育の様子、情報をこまめに伝えて情報開示をこころがけた一年であった。

(3) 給食について

給食は大切な保育の中身であり、また子どもにとっても一番の楽しみでもある。最近「食育」に対する関心の高まりに加えて「安全性」への配慮がより一段と必要となってきた。当園でも給食担当者だけでなく全職員各クラスで食育活動に取り組み、献立や栄養にも十二分に考慮して取り組んだ。調理員は研修会に参加すると共に季節感のあるメニューを心がけ、必要な栄養の確保と嗜好を大切に調理に努めた。「食育活動」として年長組を中心として「季節感のある食」をテーマに、地域の農家の方々の多大な協力を得て、体験を中心とした活動ができた。収穫するだけでなくさまざまな調理を学び口にするまでのプロセスの取り組みを行った。毎月「給食へおいでよ！」の日を設け保護者を招待して関わりもち好評を得ていたが前年度は園舎内に保護者をいれず園児だけで行った。

(4) 安全管理 ～避難訓練と交通安全～

- ・毎月、避難訓練を実施。非常ベルを使用し放送をよく聞いて担任の指示のもと速やかに避難するように訓練を行った。特に地震の訓練を意識的に行った。
- ・交通安全は年1回の「親子交通安全教室」を実施し、警察署などの関係機関の方と一緒に、交通ルールを学び実際の道路の歩き方や横断歩道での注意点を親子で実践した。また安全クラブ（保護者）による紙芝居などにより交通安全の啓発も行った。

保育園で発生した主な怪我

- | | |
|-----|---|
| 5才児 | 跳び箱の練習中に小指を骨折。 |
| 2才児 | 玩具の取り合いで女児が男児の目の下に噛みついた。目の中に傷はなく化膿止めと軟膏で処方。 |
| 5才児 | ワウワの森のアスレックでジャンプして掴もうとしたがロープを握れず落下。手首を骨折。 |

(5) 保健衛生管理

- * 年2回の内科検診・・・西山病院
- * 年1回の歯科検診・・・原賀歯科
- * 毎月の身体測定
- * 毎日のフッ素先口（年長・年中）
- * 全職員の毎月の検便検査（県予防医学協会）の実施
- * 全職員の年1回の定期健康診断（養生園）

(6) 職員研修

コロナ禍にあって集合型の研修がほとんどリモート研修に変わったことでより多くの職員が普段参加できない（遠方での研修会）講師陣の講話の話を聞く機会が増えたのはとても良かった。またリーダー会議や正職だけの戦略会議を随時開催し、職員の研修に臨む意欲も高まり保育の資質の向上に役立った。園内研修でも専門性を高めるためにリモート研修を受けて全職員で共通理解を深めることができた。

3、保育事業のまとめ

事業		内容
特別保育事業	延長保育	18時以降の保育
	軽度障害児保育	健全な社会性の成長発達を促進するため健常児と共に集団保育
	一時預かり保育	緊急時または家庭での保育ができない場合の保育
	地域活動	世代間地域交流、育児講座
	子育て支援事業	地域子育て拠点事業、家庭保育者の支援活動
主な特別活動	体育教室	以上児対象：毎月4回（指導：タイケンスポーツ来海先生）
	茶道教室	年長組対象：毎月2回（指導：裏千家 木原先生）
	英語教室	全園児対象：毎月1回（指導：クレメント・サイモン 濠州）
	子ども論語教室	年長組対象：毎月1回（指導：木原昭三先生）
保護者との連携		保育参観：年間2回、クラス懇談会は随時実施 面談：随時実施 奉仕作業：年間1回 交流会：随時実施 役員会：年間4回

4、行事報告

別紙の通り

5、園児の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	3	3	3	4	6	7	8	10	10	10	11	11	157
1・2歳	28	28	27	28	28	28	31	31	32	33	33	33	367
3歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	204
4歳 以上児	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	536
計	90	91	90	92	94	95	100	102	102	103	104	104	1181

6、地域子育て支援拠点事業

新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉所する時期もあったが、未就園児親子の集いの場所、仲間づくり、育児相談、子育ての情報提供など福祉的ニーズに対応してきた。密にならないように工夫して、料理教室やマタニティーボックスなどの行事活動も行い、職員2名が常駐し大変好評であった。平成30年度から施行された新しい保育所保育指針のなかには「子育て支援」が大きな柱の一つとして位置付けられ、益々支援センターが持つ機能が社会の中でより求められる。

利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
子ども		9	22	18	34	30	25	33	35	21	23	33	283
大人		5	16	10	28	20	16	29	29	14	20	29	219
計	0	14	38	28	62	50	41	62	64	33	43	62	502

相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来所	4	5	5	8	5	6	4	7	3	5	6	3	61
電話	1	2	1	2	2	2	5	2	1	1	1	2	22
計	5	7	6	10	7	8	9	9	4	6	7	5	83

菊池さくら保育園 行事報告

令和2年度

4月	入園式 竹の子掘り 保護者会総会 親子旅行	10月	祖父母参観 卒園旅行
5月	鯉の滝のぼり お泊り保育	11月	劇団飛行船 2園合同レクレーション 卒園写真
6月	保育参観 育児講演会 泥リンピック 一年生招待事業	12月	お遊戯会 餅つき 親子マラソン大会 → ワクワクかけっこ大会 クリスマス会
7月	七夕会 夏祭り → ちびっ子祭り	1月	七草会 みそ作り
8月	奉仕作業	2月	生活発表会 豆まき
9月	運動会（市総合体育館）	3月	ひな祭り 新入園児説明会 お別れ遠足 卒園式

令和2年度

菊池第2さくら幼楽園 事業報告書



1、保育内容

(1) 保育活動の実施について

当園の保育理念である『子ども達の生きる力を育む』を念頭におき、「丈夫で、素直な、遊べる子ども、そして考える力を身につける」を目標として、子ども達に無理なく情緒面を第一に考え保育にあたった。

常に一人ひとりを大切に保育をさくら保育園と同じように実施し、基本理念として個性を重んじ子どもの発達段階に応じた成長を目指した。そのために個人の人格を尊重することは勿論、言葉で教えることより様々な体験を通して遅く成長する保育に努めた。各クラスで担当保育士が身体を惜しまず常に話し合いを重ね知恵を絞って保育活動を実施するよう努めた。

今年度も引き続き朝の挨拶運動は繰り返し伝え、子ども達自身で考えることのできる保育を目標とした。

(2) 家庭や地域社会の連携について

園と家庭との連携を密にするため「園便り」「給食たより」「クラス便り」発行！日常の保育活動は連絡帳に記入し、コロナ禍なので保育の様子は細目に写真で掲示板に掲載している。その他にもクラスの窓やお迎えのテラス等みんなが通るところに貼り出す工夫をし、保育情報を随時発信することに努めた。

年2回の保育参観を計画したが、日にちをずらしたり時間差で行ったりコロナ禍でのやり方で実地した。世代間交流ふれあいホール「かがやき」では月1回、地域の方と触れ合う計画を立てたが中止せざるを得なかった。触れ合えなくても動画を撮り発信したり、プレゼント交換も代表の方に渡したりと工夫した。その他の老人ホーム慰問・地域の方とのコンサート・近隣の高校生交流事業は中止になった。

(3) 給食について

給食は大切な保育の中身であり、また子どもにとっても一番の楽しみでもある。最近「食育」に対する関心の高まりに加えて「安全性」への配慮がより一段と必要となってきた。当園でも全職員各クラスで食育活動に取り組み、給食担当者は献立や栄養にも十分考慮した。栄養士は研修会に参加すると共に職員への栄養指導も行った。離乳食の試食会や糖分の比較など実物を用意しての指導で理解しやすかった。0歳の入所が多いので離乳食も保育士・保護者と話し合いながらきめ細やかに進めていった。「食育活動」として年長組を中心にテ

ーマを考えクッキングを行なったがコロナ禍で思う存分にクッキングが出来なかった。菜園活動するだけでなくさまざまな調理を学び口にするまでのプロセスが大切で廊下に食材を並べ、見たり触れたりして食材に親しみをもてるようにしている。今年度もひどいアレルギーの子がいるので、医師の指示書を提出してもらい細かい配慮をする必要があった。アレルギー対応の提出書類も充実させたが調理師も保育士も特に気をつかう部分であった。

(4) 安全管理 ～避難訓練と交通安全～

毎月、避難訓練を実施。非常ベルを使用し放送をよく聞いて担任の指示のもと速やかに避難するように訓練を行った。特に地震の訓練を意識的に行ない、震災で頂いた防空頭巾を使用し避難時間を測定したりして丁寧にいった。

交通安全は年2回の「親子交通安全教室」を実施し、警察署などの関係機関の方と一緒に、交通ルールを学んでいるがコロナ禍で園内で行なった。保護者で結成している「もみじクラブ」による交通安全の啓発も活動が出来なかった。

(5) 保健衛生管理

- * 年2回の内科検診・・・西山病院
- * 年1回の歯科検診・・・荒木歯科
- * 毎月の身体測定
- * 毎日のフッ素先口（年長・年中）
- * 全職員の毎月の検便検査（県予防医学協会）の実施
- * 全職員の年1回の定期健康診断（養生園）
- * 次亜クリン水と嘔吐物処理セット・除菌クリン機を各クラスに設置
- * アルコール消毒・手指の消毒を設置（玄関・各クラス ホール 廊下 テラス）
- * 玄関に自動体温計・体温記入表・来園者記入帳設置
- * コロナ感染防止策の徹底（除菌・清掃）

保育園で発生した主な怪我

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 1歳児 | 移動中つまづいて自分で下をかんでしまった。病院受診 抗生剤を処方 |
| 3歳児 | うんていをしてる途中手が滑り着地時に足を骨折を1か月ほどギブスを装着。 |
| 5歳児 | 隠れようとして木の家にぶつかり左眉を切る、整形外科に受診 処置 |

(6) 職員研修及び会議

職員は毎週木曜日の職員会議に参加。内容について報告し、会議の内容を全職員が把握するようにする。また正職だけのリーダー会議や未満児・以上児会議を随時開催し周知の徹底と職員間の共通理解の充実を図る。リモート研修を取り入れ、質の向上に努めている。

園内研修は全職員で人権の連続研修を行なったが7月の人権発表はコロナで中止となる。今年度はコロナ感染拡大防止の為にオンライン研修を取り入れた。

2、保育事業のまとめ

事業		内容
特別保育事業	延長保育	18時以降の保育
	軽度障害児保育	健全な社会性の成長発達を促進するため健常児と共に集団保育
	一時預かり保育	緊急時または家庭での保育ができない場合の保育（自主事業）
	地域活動	世代間地域交流事業「かがやき」、育児講座
	子育て支援事業	家庭保育者の支援活動
主な特別活動	体育教室	以上児対象：毎月3回（指導：タイケンスポーツ来海先生）
	茶道教室	年長組対象：毎月3回（指導：裏千家 木原先生）
	子ども論語教室	年長組対象：毎月1回（指導：岩根美紀先生）
	英語教室	以上児対象：毎月1回（指導：サイモン先生）
保護者との連携		保育参観：年間2回、面談：随時実施 奉仕作業：年間1回 交流会：随時実施 役員会：年間4回

3、行事報告

別紙の通り

4、園児の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	12	13	15	16	15	18	18	18	18	19	20	20	202
1・2歳	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	660
3歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
4・5歳	58	58	58	59	59	59	59	59	59	60	60	60	708
計	155	156	158	160	159	162	162	162	162	164	165	165	1930

5、総評

今年度はコロナ禍で行事の中止や縮小が多く見直しや工夫するにはいい機会であった。昨年に引き続き母親の就労の為に0歳児の途中入園が多く、乳児保育の必要性を感じている。未満児保育は丁寧な小人数担当制を行っているが特に職員間の共通理解が大切になってくる。話し合いを常に持つことで、お互いの意見も傾聴出来るようになってきた。研修においては、保育環境をルーテル学院大学の香崎先生と初のリモートで行ないこれからの研修の受け方を学んだ。それから、保育士の誕生日休暇や年休で、少しでもリフレッシュが出来るようにし、働く環境づくりにも考慮している。

最後に、地域の方々との交流がほとんど出来なかったのが残念であった。サロン会の方より卒園前に手作りのプレゼントを頂いたので、お別れ会の様子を区長さんに動画配信したところ、「その場にいるみたいです」との喜びの報告があった。コロナ禍でのやり方を工夫していく必要性を強く感じた。

4月	入園式 竹の子掘り 保護者会総会 親子親睦遠足中止	10月	運動会 卒園旅行 菊池の秋祭り中止 菊池温泉薬師祭中止
5月	サロン会交流会開式中止	11月	劇団飛行船中止 マラソン大会・愛園作業 2園合同年長組交流会中止 卒園写真
6月	保育参観延期→ 7/4・7/11 地藏祭り園内で 育児講演会中止 一年生招待事業中止	12月	お遊戯会 地域との餅つき中止 クリスマス会
7月	七夕会 夏祭り園内で 祖父母参観中止 お泊り保育園内	1月	七草会
8月		2月	保育参観 → 懇談会及び DVD鑑賞 豆まき
9月		3月	ひな祭り会 2園合同年長組交流会中止 新入園児説明会 お別れ遠足場所変更 卒園式